

チャイルドライン とちぎ



チャイルドラインとちぎは 18 歳までの子どもがかける子ども専用電話です。現在、全国のチャイルドラインと連携し、毎日 16～21 時までフリーダイヤルでつながります。オンライン相談も開設しています。



『巳 富貴花』 松江 比佐子



『巳 千代木』 松江 比佐子

私たちは
「子どもの権利条約」の理念に基づき
すべての子どもたちの豊かな「子ども時代」が保障され、
自分らしく生きていくことができる社会作りを
目指しています。

発行元
認定 NPO 法人チャイルドラインとちぎ広報部
〒320-0837 宇都宮市弥生 1-6-3
Tel&Fax 028-614-3253
E-mail info@cltochigi.org
<https://www.cltochigi.org/>



特定非営利活動法人(認定 NPO)

チャイルドライン支援センター常務理事に就任

チャイルドラインとちぎ理事長 福本 佳之



能登半島地震から早くも 1 年が経ちました。今なお日常生活が戻らない地域や人たちがいる事を、私自身の仲間から直接伺うことが多く、日常の有難さを感じる日々です。

大きな災害や社会問題に直面するたびに私が真っ先に考えるのは、この現実が子どもたちにどう映っているか、であり、子どもが社会をどう見ているのか、ということ。

日本の社会は少なくとも、子どもから見える景色や未来像を大切にしてきたとは思えません。この国の文化や風土や社会は、全てとは言いませんが、大人都合に創ってきたように感じます。

「人口減少」という国が創建されてから恐らく初の事態。これからの社会をどう描くか？私たちの地域や大切なものをどう守るか？自問自答する中で浮かんだ答えは、「子どもたち」と一緒に考えることです。今こそ子どもたちの声をどう社会に反映するか、だと私は確信しています。

2024 年 6 月からエリアのご推薦をいただき、チャイルドライン支援センター常務理事としても活動しております。12 月にはこども家庭庁に出向き、三原じゅん子内閣府特命担当大臣と 1 時間意見交換をする機会を頂きました。また 2025 年の 1 月 18 日にはチャイルドライン 25 周年式典を開催し、超党派のチャイルドライン支援議員連盟会長である野田聖子衆議院議員にもご登壇頂き、子どもをまんなかに据えて、チャイルドラインと共に政策を進める想いを伺いました。

チャイルドラインが積み重ねてきた 25 年の歴史を振り返ることで見えてきた未来があります。ヒントは、チャイルドラインのミッションにありました。チャイルドラインのミッションは、

子どもの権利条約に基づき、

1、子どもの「声」を受けとめること

2、子どもの「声」を社会に発信すること

この 2 つですが、私たちはこの 25 年子どもの「声」を受けとめ続けてきました。そして、この「声」がしっかりと刻まれてきました。今こそ、この子どもたちの「声」を社会に発信することが、まずは子どもたちと一緒に未来を見ることに繋がると信じています。

人口は減少し子どもの数は減っているのに、子どもの自殺は減りません。この現実を変える。チャイルドラインのミッションを通じて実現していきます。

2024年 子どもの声

不登校について子どもたちの声を一部紹介します。

文部科学省の調査で、不登校の状態にある小中学生は 2023 年度では 34 万人余りにのぼり、11 年連続で増加し過去最多となったことがわかりました。調査は昨年度のものですが、2024 年もチャイルドラインには不登校やさまざまな理由で学校へ行きにくさを感じている子どもたちの声が多く届いています。

※プライバシーに配慮し内容は再構成してあります

部活の友だちにいじられる。悪気はなくてもすごく傷ついている。部活にも学校にも行きたくない。

いじめにあって学校に行けてない。
勉強が遅れているのであせっている。

自分が人からどう思われているか、嫌われていないかととても気になる。
そのせいで緊張して学校に行くのが不安。

友だちもリアルではなくてネットと話すのが生きがい。
学校の友だちにはなじめないし、ずっと家にいたい。

笑うことや笑い声を聞くのが怖い。
自分が笑われていると思ってしまう。学校が辛い。

大きな声が苦手。大勢の声が一気に聞こえてくるようで学校はうるさくて自分の居場所がない。

クラスに仲の良い友達がなくて学校に行きたくない。休み時間が辛い。
一人でも平気でいられるようになりたい。

学校の同調圧力や理不尽な暗黙のルールが苦手。
人も信用できないし学校は自分に合っていないと思う。

誰にも会いたくないし LINE も返したくない。学校にも行きたくない。
休んでも学校のことを考えるから気持ちが休まらない。

2024 年全国キャンペーン報告

【聴かせてほしい あなたの声】

期 間 2024年8月22日(火)～9月4日(月) 16時～21時

子どもが生きづらさを感じ、つらい気持ちのピークといわれる夏休みの終了時期にあわせ、「子どもの権利条約 12 条」「話す権利」「聴かれる権利」を子どもやおとなに伝えるためのキャンペーンを展開し、受信体制を強化し参加しました。

学校へ行くことの不安や友だちとの関係性に悩む声などが多く寄せられました。

	発信件数	着信件数
電話	11,795 件	7,136 件
ネットでんわ	203 件	185 件

	書き込み件数	対応件数
チャット	2,748 件	1,015 件

キャンペーン期間中に福本理事長が NHK-FM に出演しました。

番組名「金曜カフェとちのき堂」。

子どもの「声」を受け止める～18歳以下の子どもの声を聴く活動・チャイルドラインとちぎ～と題してチャイルドラインの活動を紹介しました。



☆子どもたちの声を一部紹介します。

※内容はプライバシーに配慮し再構成しています。

- ・学校が始まると思うと怖くて死にたい。他人の前ではにこにこ笑わないと、と思うと表情がかたまってしまう。
- ・学校の給食時間にいつも吐き気がして迷惑かけてしまう。明日から学校で怖い。
- ・夏休み前に友達とケンカしてまだ仲直りできていない。なんて話しかけようかな。

【24 時間ずっとつながるチャイルドライン】

期間 2024年11月20日(水) 16時～11月26日(火)～21時

子どもたちの「いつもの時間だと電話がかけにくい」という声にこたえ、通常開設時間外にもフリーダイヤルを開設し 24 時間子どもの声を聴くキャンペーンに参加しました。

期間中は、平日の日中や深夜帯にも電話がありました。開設していればリアルタイムで話したい、つながりたい子どもがいるのだと実感しました。



通話料無料 0120-99-7777

☆子どもたちの声を一部紹介します

※内容はプライバシーに配慮し再構成しています。

- ・自分は発達障害かもしれない。日常生活がうまくいかない。すべて後回しで遅刻することもある。
- ・テストの点数が上がったのに、みんなの平均点も高かった。数学は大人になって役に立ちますか。
- ・近所の人から性暴力被害にあった。すごく怖くて誰にも話せていない。今日電話で初めて話した。

研修報告

子どもを取り巻く環境の変化とともに、子どもの問題も複雑になってきています。チャイルドラインとちぎでは、相談員のスキルアップを図るために、専門の講師を招き子どもの現状を知る研修や、傾聴、ロールプレイなどの研修を行っています。今年度はコロナ禍以降休止していた現地研修も行いました。（以下の研修事例を紹介します。）

「現場から見える栃木県の子どもの現状にんしん SOS の取り組み」

2024年7月28日(日) とちぎ青少年センター
講師 小嶋由美氏 にんしん SOS とちぎ栃木県助産師会

～参加者の感想～

インターネットで情報があふれている現在、子どもたちに性に関して正確な知識を伝える必要があること、そして助けが必要な時に必要な場所につながるものが何よりも大切だと感じました。県内にも誰にも相談できずに自分で抱え込み不幸な結果となってしまった事例もありました。チャイルドラインにつながった子には、「あなたは一人じゃない」と伝え続けていきたいと改めて思いました。

現地研修

10月15日(日)

栃木県立学悠館高等学校

現地研修として栃木県立学悠館高等学校を見学させていただきました。校内に入ると、学校全体がとても広く開放的なのが印象的でした。

授業風景を見学することができ、学校概要など説明をしていただきました。学悠館高等学校は単位制で定時制課程と通信制課程に分かれています。定時制課程は昼夜開校しているフレックス制です。授業も自分で学びたいものを選択でき、多様なアプローチが採用されているため、生徒が自分のペースで成長していける環境が整っているように思いました。

生徒が自分らしく成長できる場で、誰もが安心して学びを直しができ、学びを深めていける場所だと感じました。

S-PEC にカード配布を協力していただきました

S-PEC（えすぺっく）は、栃木県宇都宮市を中心に活動する LGBTQ+ 当事者とその家族・友人のための支援団体です。これまでチャイルドラインとちぎは、度々学習会に参加して交流し学んできました。S-PEC は今年度、鹿沼市の中学生に性の多様性を伝える授業を行ってきました。その際にチャイルドラインのカードも一緒に子どもたちに配布してくださいました。

15 期受け手養成講座を開講します

■養成講座 2025年6月～11月（11回の研修・フォローアップ研修4回を予定）

■会場 とちぎ青少年センター（アミークス）

※募集要項等、詳細は3月以降にHP・チラシに掲載します。



宇都宮市内巡回指導

8月1日(木) 宇都宮駅東口周辺

宇都宮市内巡回指導に参加しました。警察や他の団体の方たちと一緒に、LRT が開通して賑やかになった駅東口周辺から少し離れたところまでをパトロールしました。夏休み期間中ともあって、多くの子どもたちの姿を目にしました。



宮まつりボランティア

8月4日(日) 宇都宮市中心部

今年も宮まつりにボランティアとして参加しました。おどり会場での多くの来場者の通行の警備や、会場アナウンス、タイムキーパーを担当しました。



ふれあいフェスタ

子どもたちとプラバンを作りました

11月10日(日) とちぎ青少年センター

プラバン制作は親子連れで大盛況でした。午前中でプラバンが終了してしまうほど。限られた材料のなか、子どもたちはペンを譲り合って制作していました。どの子も夢中で自分の好きなキャラクターを描き、最後はオレンジのジャンパーを着たスタッフにトースターで“チン！”してもらっていました。完成品を見て喜び、大切に持ち帰る姿は、私たちにとって大きな喜びでした。



第15回子ども虐待をなくそう 県民のつどい

11月17日(日)白鷗大学 国際ホール

幼い兄弟が同居する男性から暴行を受け、思川に投げ込まれて水死した思川事件から20年が経過しました。その歳月を振り返りこれからを考える県民のつどいが、小山市で開催されました。子ども虐待防止ネットワークとちぎの構成団体であるチャイルドラインとちぎも集会に参加しました。

2度と痛ましい事件を起こさないためにオレンジリボン運動が小山市で始まり、活動は全国に広まりました。国レベルでは児童虐待防止法や児童福祉法の改正が行われ、自治体や民間レベルでの子育て支援対策も行われてきましたが、虐待件数は年々増え続けています。私たちに出来ることは、重篤な虐待事件が起こる前に、「あれっ?」と感じた違和感をそのままにしないこと、「小さなお節介」が今こそ必要で、それが困窮している保護者の支援にも繋がり、虐待防止になるかもしれません。

チャイルドラインとちぎとしても、子どもの声を聴き、あなたのことを大切に思う大人がいることを伝え続けていけたらと思います。



サンタ de ラン&クリーン

12月15日(日) オリオンスクエア

今年も寄付先団体(17団体)として参加、ピザの販売をしました。石窯で焼き上げた熱々のピザは、寒さのなか大盛況でした。

ピザの売上金と事務所に募金箱を設置して集めたものを合わせて8万円を寄付することができました。

ピザ作りは今年も「ムラづくり応援隊」(宝積寺タクシー様)に全面協力いただきました。ありがとうございました。売上げの一部は福祉施設の支援になるそうです。



ご支援ありがとうございました 令和6年7月～令和6年12月

団体

相沢商会有限会社	くろさきこどもクリニック	株式会社ViPass
有限会社いちご広告社	黒田内科・循環器科	福田こどもクリニック
いとうこどもクリニック	白石環境株式会社	宝泉寺
おかべこどもクリニック	栃木放射線株式会社	やしお幼稚園
小山FCライオンズクラブ	とちぎっ子発達クリニック	株式会社渡辺有規建築企画事務所
柏建設株式会社	浜村会計	

個人

飯塚 真玄	小野 悦子	佐竹 淳	谷 博之	西根 美香	松江比佐子	矢吹 佳子
飯塚 有美	柏崎 和枝	篠田 健次	東原 正記	浜村 美香	水越 久夫	横田 京子
生野 裕子	川俣 弘子	鈴木千鶴子	手塚 寛	福田 容子	麦倉 敬亮	横田 英典
浦部 延子	菊池 伸一	関沢 紀	中村 悦子	福本 佳之	村山 直樹	若色美佐子
枝野 滋子	草野 信子	添田わかな	中村美津子	藤井 幸子	村山 雅子	渡邊 正芳
大島 誠	黒崎 佐代	高橋 昭夫	成田 和美	古川 弘	森 るみ子	
大場 俊一	小林さえか	高橋 昭彦	成田 泰進	保坂利佳子	谷野 定之	(敬称略・五十音順)

インフォメーション

チャイルドラインとちぎ チャリティゴルフコンペ開催のご案内

*日 時 2025年5月4日(日) 午前9時15分スタート

*場 所 新宇都宮カントリークラブ
(芳賀郡市貝町大谷津1180 ☎0285-68-0811)

*参加費 3,000円 *プレー費 10,550円(昼食・ソフトドリンク付き)
(参加費の一部をチャリティとさせていただきます・参加者全員に賞品付)

お申込み・お問い合わせ チャイルドラインとちぎ事務局 E-mail info@cltochigi.org



チャイルドライン支援のお願い

チャイルドラインとちぎは認定NPO法人です。当法人への寄付に際しては、税法上の優遇措置を受けることができます。フリーダイヤルを継続していくために、ぜひご支援くださいますようお願い申し上げます。

支援会員 個人一口 3,000円 団体一口 10,000円 ※何口でも結構です
郵便振替 口座番号 **00120-2-659158** ※任意の寄付金も受け付けています

加入者名 チャイルドラインとちぎ

銀行振込 栃木銀行において本会の趣旨に賛同くださり、本会所定の振込用紙による同行本支店の振込手数料を無料扱いにしてくださっています。お振込みの場合は下記に「振込用紙」をご請求ください。

問合せ先 **チャイルドラインとちぎ** TEL・FAX 028-614-3253 E-mail info@cltochigi.org

『チャイルドラインとちぎ』は、

宇都宮市つながりサポート女性支援事業、通称”つなサポ”の協力団体です。

また、子ども虐待防止ネットワークとちぎの構成団体としても活動しています。

